

小学校中堅教師のキャリア発達
－教務主任経験に着目して－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
松浦 明日香

本研究は、小学校中堅教師の教務主任経験を事例的に考察することを通して、中堅教師のキャリア発達についてのより精密なモデル構築に寄与することを目的とした。方法は一対一の半構造化インタビューの形式を取った。調査対象者は現在教務主任を務める公立小学校中堅教師3名であった。その結果、以下の点が明らかになった。第一に、教育実践家としてのアイデンティティの喪失と管理職としてのアイデンティティの確立は管理職期に起こり始めることでなく、中堅期から始まることが示唆された。第二に、教師には教務主任の後は管理職といった一定のキャリアパターンが存在するが、本研究では、教務主任の経験を踏んで、管理職を目指す者もいれば、今後は担任に戻ることを希望する者もいることが示された。第三に、現代的な背景のもと、早すぎる管理職化が起こっている可能性が示され、このことから、教師のキャリア発達は、内発的なものとして進んでいくだけでなく、外発的なものによって、時にそれは変化を強いられる形で進んでいくことが明らかになった。今後、担任に戻った教師のキャリア形成や教務主任以外の役割について取り上げることで、中堅期についてより詳細に検討していく必要があると考えられた。